

# 九州大学箱崎キャンパス 跡地利用将来ビジョン 【概要版】

2013.2

九州大学箱崎キャンパス  
跡地利用将来ビジョン検討委員会





## はじめに

箱崎の地は、近世、唐津街道の宿場町として、古くは「拾遺和歌集」に「いく世にか語りつたへむ箱崎の松の千とせの一つならぬば」(源重之)と詠まれたように、箱崎宮を中心に千年の歴史を持ち、栄えた地域です。

九州大学は、1911年(明治44年)に箱崎に新設された工科大学と従来の京都帝国大学福岡医科大学(明治36年、現九大病院地区設置)が統合して創立され、今日まで地域の皆様に支えられ、発展してきました。

福岡市は、1889年に城下町福岡と町人のまち博多部を市域として、人口約5万人の市として誕生しましたが、その後、九州大学創立にあわせて、箱崎と福岡城下の間に路面電車(現、明治通り等)が開通し、九州帝国大学、博多部、福岡城下を繋ぐ近代都市としての骨格を形成してきました。近代都市の歴史の中で形成されたその骨格は、今日まで福岡市の発展を支えてきましたが、1910年代後半には路面電車が走る通り沿いに福岡女学校(現、福岡女学院大学)、西南学院中学(現、西南学院大学)などが相次いで開校し、九州帝国大学の創立は大学のまちとしての福岡市の出発点であるとも言えます。

現在、九州大学は、世界的な教育研究拠点としての伊都キャンパスを福岡市西部に開校し、2019年(平成31年)までに箱崎キャンパスからの移転完了を目指しています。福岡市の近代都市としての出発点の一つである箱崎キャンパスが創立後百年の歴史を経て、その土地利用を転換することとなっています。

箱崎キャンパスの跡地利用は、箱崎地区のみならず、福岡市および福岡都市圏の今後の発展にとっても極めて重要な課題であり、箱崎千年の歴史を大切にしながら、このまちの発展に貢献してこられた方々の思いを受け継ぎ、未来の若者達に繋いでいけるような、百年後の未来に誇れるまちをつくりたいとの思いで検討を進めました。

この度、「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」として取りまとめましたので、ここにご報告申し上げますとともに、地域の方々、関係分野の方々、行政の方々をはじめ、検討に際してご協力頂きました方々に厚く御礼申し上げます。最後に、本ビジョンに基づき、地域の一層の発展へとつながる跡地利用が実現することを関係者の方々に心からお願い申し上げます。

平成 25 年 2 月 19 日  
九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会  
委員長 出口 敦

## 将来ビジョン策定の目的

### 目的

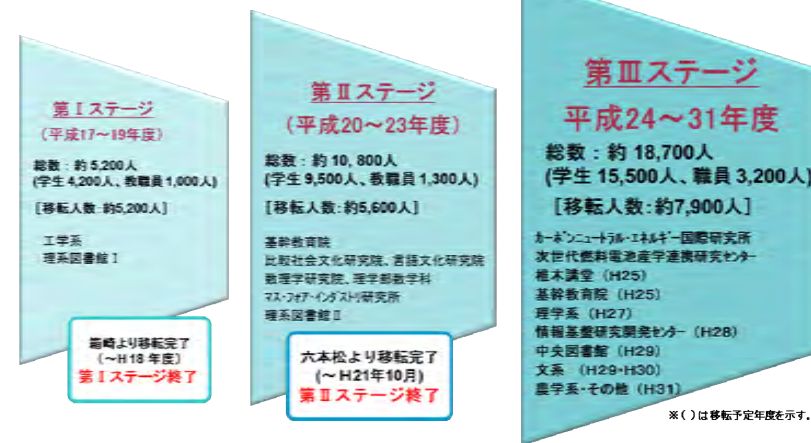
この「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」は、九州大学統合移転事業に伴う箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるため、その基本的な枠組みを示すことを目的としている。

### 箱崎キャンパスの位置



## 統合移転事業の概要

- ・箱崎キャンパスは、平成17～19年に工学系地区が移転完了。
- ・平成27年以降に理学系地区、文系地区、農学系地区が順次移転予定。



### 【箱崎キャンパス移転スケジュール】



## 箱崎キャンパス地区が担うべき役割

- ・ 地区の優位性と課題
- ・ 上位計画
- ・ 関連施策
- ・ 社会情勢の変化

### 箱崎キャンパス地区が担うべき役割

- 1) 立地等の条件
  - ①陸・海・空の多様な輸送手段の集積、福岡都心部への近接性、高い鉄道利便性を活かして、文化、経済等の面で様々な地域・人などをつないでいく役割
  - ②高度医療施設の集積など既存施設との連携が可能な機能の誘導等により、福岡市の成長の促進に貢献する役割
  - ③公共公益施設等の集積を活かし、都市圏住民に対して、今以上にさまざまな機能を提供する役割
- 2) まちの魅力
  - ①学術、文化等の面で、東区に多く立地する大学・短大とアジアとつないでいく役割
  - ②九州大学が存在したブランド力を活かし、教育・研究等の機能誘導等により、九州全体の成長の促進に貢献する役割
- 3) 安全・安心・暮らし
  - ①災害に強い地理的条件を活かして、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割を果たすなど、安全、安心に貢献する役割

### まちづくりの方針



# まちづくりの方針

# 将来構想

**方針 1** 福岡市の持続的な成長に資する  
**新たな活力・交流を生み出す**

福岡都心部に近い大規模な土地利用が可能な土地であり、交通利便性の高い立地特性を生かしながら、福岡市の持続的な成長に貢献する、新たな活力・交流を生み出すまちを目指します。

**【導入機能】**  
 (1) 新たな産業・雇用の場の創出  
 (2) 立地特性を生かした広域連携拠点づくり  
 (3) 文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出

**方針 2** 九州大学が存在した地として、  
**充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる**

「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるまちを目指します。

**【導入機能】**  
 (1) 新たな教育・研究機関の導入  
 (2) これまでの外国人留学生、研究者等の受け入れ環境の活用

**方針 3** 高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、  
**安全・安心・快適で健やかに暮らす**

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、だれもが安全・安心・快適で健やかに暮らすことができるまちを目指します。

**【導入機能】**  
 (1) 災害に対応できる防災活動の場の創出  
 (2) 九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実  
 (3) 交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

〈跡地利用にあたって踏まえるべき視点〉

**方針 4** 千年のまち、大学百年の  
**歴史文化資源を大切にする**

千年以上の歴史を誇る宮崎宮や旧箱崎宿の町家、百年の時を刻んだ箱崎キャンパスなど、箱崎のまち全体が有する「まちの生い立ちの継承」「九州大学の近代建築物の活用」の検討を進め、歴史文化資源を大切にするまちを目指します。

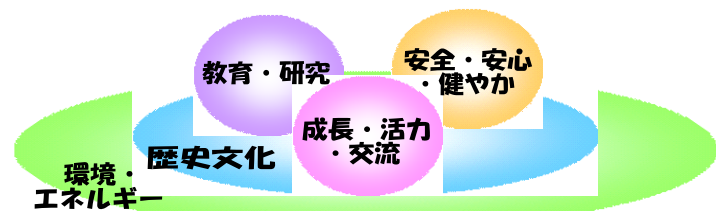
**【導入機能】**  
 (1) 周辺の歴史文化資源と連携するなど、まちの生い立ちを継承  
 (2) 九州大学の歴史文化資源の活用

**方針 5** 次世代の環境技術と豊かな緑を生かして  
**環境と共生し、持続可能なまちをつくる**

地域の貴重な緑の空間であるキャンパス内の既存樹木を生かすとともに、九州大学の先進的な環境技術を活用し、「低炭素」で「水や資源を生かした循環型社会の形成」や「緑・水辺との共生」を進め、環境と共生し、持続可能なまちの形成を目指します。

**【導入機能】**  
 (1) 低炭素なまちの創造  
 (2) 水や資源を生かすまちの創造  
 (3) 箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

【まちづくり方針のキーワード】



## ■土地利用の考え方

### 1. 「成長・活力・交流」ゾーン

《立地が考えられる主な機能(例)》  
 ○新産業創造機能、業務商業機能 ○広域行政機能 ○コンベンション機能、スポーツ・交流機能、文化発信機能

### 2. 「教育・研究」ゾーン

《立地が考えられる主な機能(例)》  
 ○教育・人材育成機能 ○研究・開発機能 ○留学生支援機能

### 3. 「安全・安心・健やか」ゾーン

《立地が考えられる主な機能(例)》  
 ○医療・福祉機能、健康増進機能 ○防災機能 ○生活利便機能、居住機能

### 4. 「歴史・文化」を活かす地域

・箱崎のまちが有する歴史文化資源を大切にし、貴重な地区資産として活かす。  
 ・宮崎宮や旧唐津街道の街並み、九大近代建築物等の地区資源をつなぎ、周辺が調和・連携したまちを形成する。

### 5. 「環境」との共生、再生「エネルギー」の活用【箱崎キャンパス地区全体】

・地蔵松原と称された松林など、歴史的な由来を継承しながら、これからも豊かな緑を守り・育てる。  
 ・九州大学の先進的な環境技術を活用しながら、まち全体で環境と共生し、持続可能なまちを形成する。

### □新しく生まれ変わる箱崎キャンパス地区の「顔」となる駅周辺地域

《立地が考えられる主な機能(例)》  
 ○まちの顔となる機能、にぎわい・交流機能 ○交通利便性を高める機能 など

## ■都市基盤整備の考え方

- 《まち全体の交通利便性を高める》
  - ・箱崎キャンパス地区とその周辺を含むまち全体の交通利便性の向上 等
- 《既存環境・周辺魅力資源を活かす》
  - ・箱崎キャンパス内の緑地等の既存環境や宮崎宮等の歴史文化資源など、周辺に立地する魅力資源の活用
- 《生活の豊かさや安全性を向上させる》
  - ・箱崎キャンパスで新たに始まる生活・活動の豊かさや安全性の向上
  - ・だれもが安全・安心に生活・活動するための、都市基盤整備におけるユニバーサルデザインの導入



1

多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する

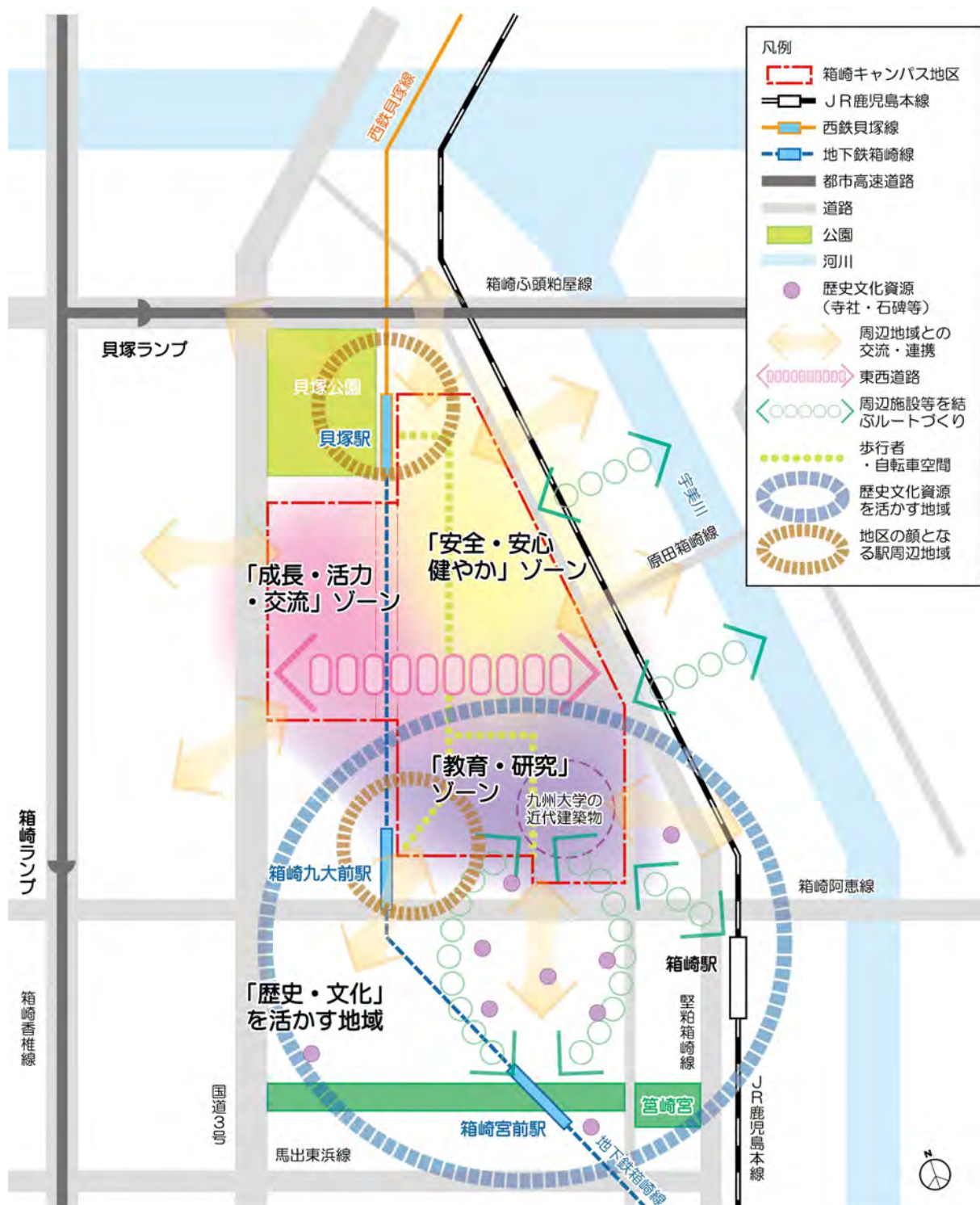
2

周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展する

3

持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる

【将来構想イメージ】



※道路、歩行者・自転車空間などの位置は全てイメージ

■空間整備の考え方

《まち全体の一体感を創出する》

- ・統一感のある街並み景観形成やオープンスペースなどによるまち全体の一体感の創出

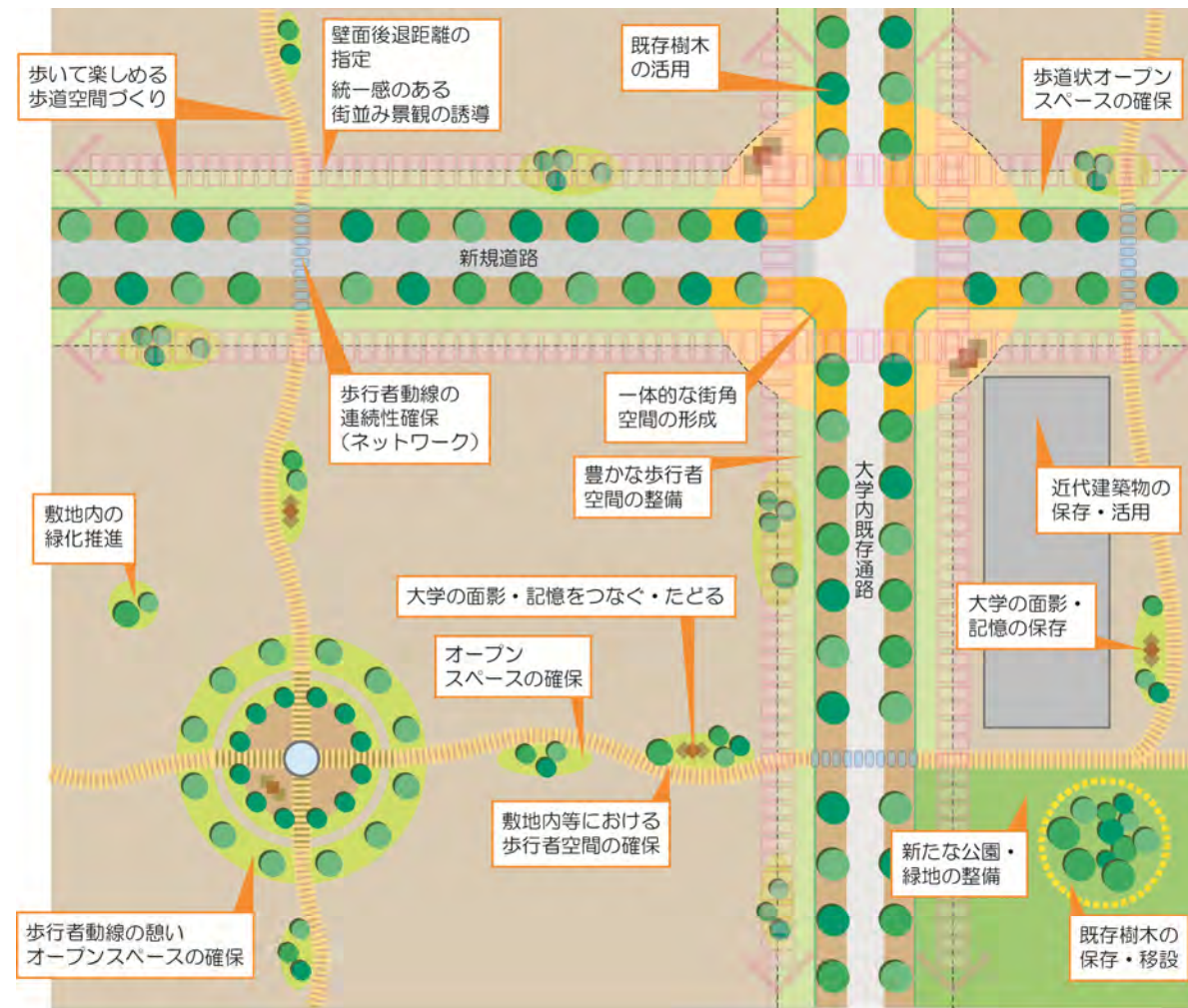
《「大学100年の歴史と緑」を活かす》

- ・近代建築物や既存樹木などの新たなまちづくりにおける活用

《「100年後の未来に誇れるまち」をめざす》

- ・地元住民、福岡市、九州大学、事業者などによる共通ルールに基づいた持続可能なまちづくりへの取り組み
- ・「誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち」を実現するための、ユニバーサルデザインの導入

【空間整備イメージ】



- ・一体的機能の誘導
- ・まちづくりルールの策定
- ・持続的なまちづくり運営
- ・オープンスペースの有効活用

# 跡地利用（処分）の考え方

## ■基本的な考え方

### 1. 将来ビジョンを踏まえた跡地利用

＜跡地全体について、一体感のあるまちづくりの推進＞

- ・移転後の速やかな跡地利用のため、段階的な土地利用の転換を図る場合においても、全体として一体感を創出すまちづくりを推進する。

＜周辺地域との調和・連携＞

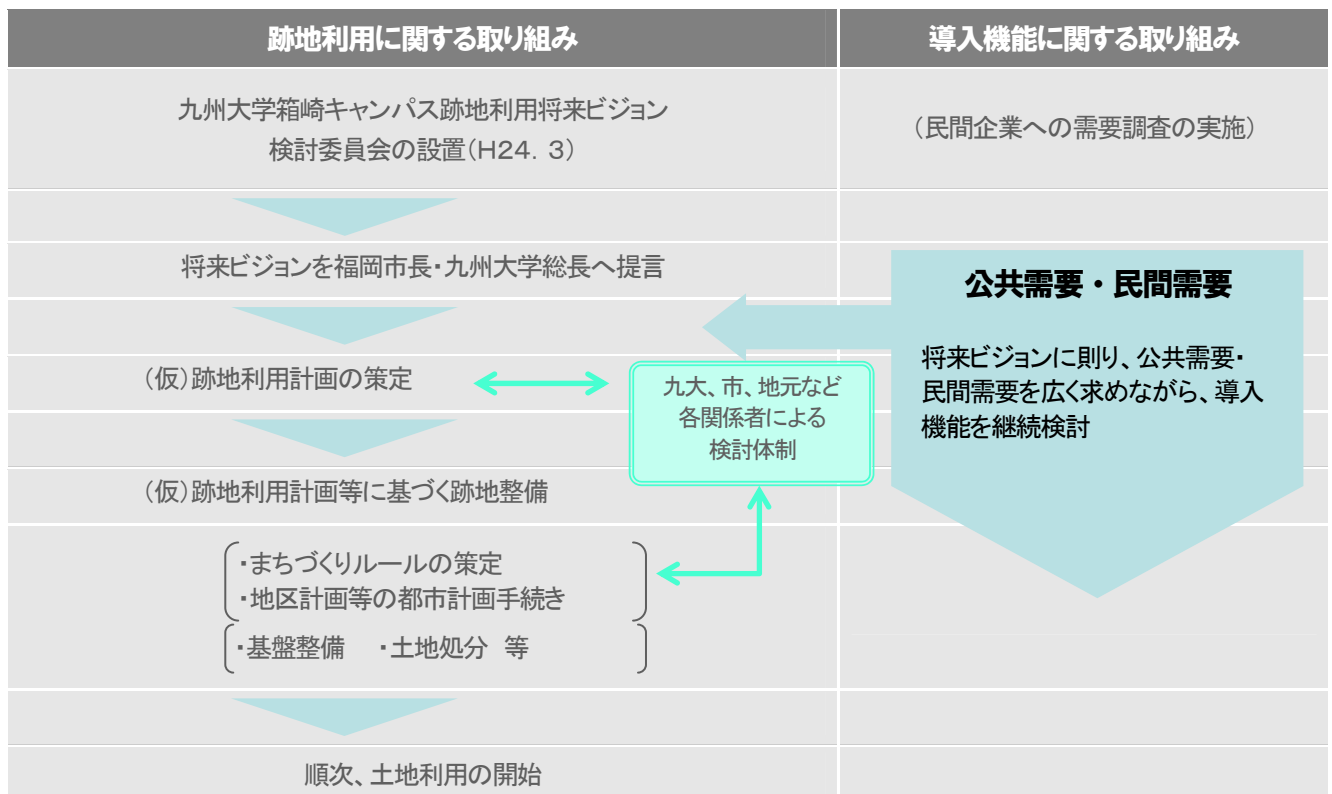
- ・箱崎キャンパス周辺の市街地や歴史資源、交通施設等の立地状況などの地域特性を踏まえ、周辺地域と調和・連携し、一体的に発展できる跡地利用を誘導する。

### 2. 九州大学の統合移転事業を踏まえた跡地処分

- ・「箱崎キャンパス跡地等の処分収入で伊都キャンパスの施設整備費を賄う」という九州大学統合移転事業の原則を踏まえて跡地処分を進める。

- ・九州大学の統合移転スケジュールを踏まえて計画的な跡地処分を進めつつ、まちの活力低下を最小限にするため、各地区の移転後は速やかな跡地利用を促進する。

## ■跡地利用の進め方のイメージ



旧九州帝国大学工科大学本館を望む  
(明治44年頃)



宮崎宮楼門



宮崎宮 玉せせり